

2018

南京の記憶をつなぐ映画祭

私たちは、過去の歴史を正面から見据え、同じ過ちを繰り返さないために、中国侵略の象徴である「南京大虐殺」の事実を明らかにしていく活動をしています。

2014 年から市民団体や個人が参加する実行委員会形式でドキュメンタリー映像の上映に取り組んできました。南京の記憶をつないでいく集いとして、今年は日本初公開を含めた4本の南京大虐殺のドキュメンタリー映像の上映を計画しています。また、紫金草合唱団による鎮魂歌の演奏があります。

映画の詳細は裏面をご覧ください



日時: 12月2日(日)

9:50~16:00

(開場 受付 9:30~)

会場: エルおおさか南館
5階ホール

*地下鉄・京阪天満橋下車西へ 300m

*地図参照

費用: 1日通し券

前売1500円、当日2000円

単券 800円

<プログラム>

9:50 開会あいさつ

10:00 ①「アイリス・チャン」
紫金草合唱団(演奏)

(休憩)

12:40 ②「南京の松村伍長」
「証言者一張秀紅」

14:15 ③「南京引き裂かれた記憶」

※各回ごとに入れ替えとなります。





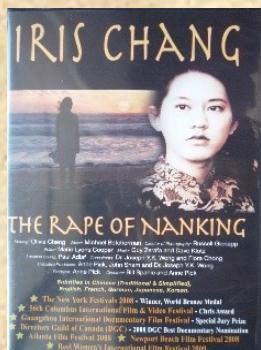
『証言者 張秀紅』 制作 江蘇電視台 制作総監督:戴波

1937年12月13日南京陥落の日から約6週間、男は殺され、どれだけの女性がレイプされたことだろう。東京裁判では2万人の女性が被害に遭ったと記録されているが、張秀紅もそのうちの一人だ。あの時11歳だった少女は日本兵に輪姦された。未成熟な体は引き裂かれた。彼女は口を閉ざし結婚も望まなかったが、同じ様に家族を殺された夫は、妻の痛みを理解し、ともに家庭を築いた。既に夫を見送った張秀紅は「私はまだ生きていて、この世にいて辛いわ。」と写真に語りかける。



『南京の松村伍長』(30分) 監督:松岡環・岡崎真由美

元兵士松村芳治が語る南京大虐殺は、足かけ8年間の長期にわたる取材にもかかわらず話す内容は一貫していた。南京陥落の日に揚子江岸に攻め込んだ全ての日本兵が、流れゆく無辜の人々を機銃掃射した様子。南京陥落の翌日大規模な掃討の中、松村は、難民収容所から引き出した10人の中国人を軽機関銃で殺したこと。彼の青春時代、軍隊内では「上からの命令は疑問に思うことすらなかった」としみじみ語る。出会いから彼が亡くなる直前まで、私たちは松村の発する言葉と表情を記録してきた。晩年の映像は、彼の心のゆれや痛みが垣間見られる。



『アイリス チャン The Rape of Nanking』(103分)

制作総監督:戴波・当映像監督:徐媛 制作:アルファ教育財団

若い女性ジャーナリストのアイリスは、26歳の時に初めて南京大虐殺の事実を知った。その時からアイリスの生活は激変した。南京での取材、証言者からの聞き取り、昼夜を分かたず執筆し、時には、聞き取った被害者の心や体の痛みを自分のものと感じ心を痛めた。彼女の著作『レイプオブナンキン』は北米でのベストセラーとなり、日本軍が南京で起こした中国人への大虐殺が世界に知らされた。しかし、彼女は激務も重なり重い病を発症しついに自らの命を絶った。画面に流れる美しいメロディーはアイリスの魂を奏でる。



『南京引き裂かれた記憶』(88分) 総監修(監督):松岡環

監督の松岡環は、南京戦元兵士250名、南京の被害者300人を取材し、映像に記録した。

南京の引き裂かれた記憶に向き合う。80年の時を経てなお、昨日の事のように語られる生きる記憶……。無惨な性暴力被害にあった老女性は言う、「本当に言いたくもない酷い事。ずっと誰にも言えなかった」と。そして元日本兵鈴木は、「事実、私も目の前で見てきました。これが本当の地獄だと思いました」と語る。被害者たちが、身を引き裂かれるような記憶とともに今まで生きてきたことを、私たちはどれほど感じ取れるだろう。

紫金草合唱団の紹介 南京大虐殺の加害をテーマに贖罪と平和への願いを合唱朗読構成にし「不忘歴史 面向未来」(歴史を忘れず未来に向かおう)を合言葉に「紫金草物語」を歌い続けている。全国の紫金草合唱団が集まり、日本紫金草合唱団として、2001年南京での初公演以来国際交流を続け、昨年4月の南京公演は第12次の海外公演となる。

主催:「南京の記憶をつなぐ」実行委員会

団体/ NPO 大阪府日本中国友好協会(戸毛敏美)、大阪城狛犬会(伊関要)、関大校友連絡会(森田徹)、

日本中国友好協会大阪府連合会(渡辺武)、銘心会南京(松岡環)、グループZAZA、週刊金曜日読者の会大阪、
関西紫金草合唱団

個人/ 岡田光司、志水博子、中沢浩二、古賀滋、服部良一

(9月13日現在)